



お姉ちゃんになったよ。

雷電町 村澤裕子さん 36歳

予定日より2カ月近く早く生まれ、体も1,916gと小さかった璃音も4月で2歳になります。生後1カ月までは、大学病院へ入退院を繰り返し、とても心配をしましたが、現在は元気一杯に毎日を過ごしています。

今年1月には、弟「奏羽」が誕生し、お姉ちゃんになりました。たまに焼きもちをやくこともあります。哺乳瓶を運んでくれたり、「いい子、いい子」と頭をなでてくれたりと、奏羽の世話をしてくれます。また、洗濯物をたたもうとしたり、ママの着替えを手伝いたがったりと、どんどん女の子らしくなっていく璃音。これからも、思いやりのある優しい人に、成長してほしいと思います。



お姉ちゃんになった璃音ちゃん(2歳)

マイカーデコレーション 花は手をかければこたえてくれます



春と秋の2回、花の植え替えをしています。4月から5月にかけて、サマーウェーブ、ミリオンベル、サフィニアを植えます。夏の強い日差しを受けるので、水やり、害虫駆除に気を使います。10月下旬には、パンジー、ピオラ、プリムラ、ジュリアンに植え替えます。寒さに強い花ですが時々野鳥に花弁を食べられてしまうこともあります。

植え替えの時は、土づくりが大変ですが長く咲き続けるのでやりがいがあります。今年はマラコイデスの花苗をいただいたので霜に当てないよう大事に育てました。

花も手をかけて管理すればそれにこたえてくれるような気がします。これからも楽しみながら元気な花をいっぱい咲かせていきたいと思います。

けやき平一丁目 松井秀子さん

KOGA 万華鏡

どこにあるのでもない。布袋の担ぐ袋のように、自分の内にこそあるのだ、といった意味でしょうか。あるいは、利位は、「仏法」を「夢」と置き換えて思いを託したかったのかもしれない。夢は叶うものだけれども、対岸から独りでにやってくるものではないのだよ。成功も挫折もひとからげにして袋を背負っていくのだから。そして利位は、この歌にあわせて、じつに妙なる画を描きました。口絵「布袋図」の上部に記される歌とその下に描かれる布袋様、



土井利位筆「布袋図」

た。一例を示せば、江戸中期以降では黒字に転化することのなかった幕府財政を、一時的とはいえ、赤字から脱却させています。折しも家中には、好学の気風があらわれ、利位の牽引する古河藩に「夢」の詰まった袋を担ぐ人々が溢れ、多くの人材を輩出したのは決して偶然ではないでしょう。すなわち、地理学者鷹見泉石や文人枚田水石・市川其融、医学者河口信順等々のような。(テーマ展は、5月5日まで) 古河歴史博物館学芸員 永用俊彦

京都所司代・老中として幕政改革を推進した古河の殿さま土井利位。多忙な公務中、20年以上の観察成果をまとめ著した『雪華図説』は、現代にあつてなお日本初の雪の科学書として絶賛されています。いわば政治家と学者という二足の草鞋を履くそんな利位の人となりを紹介してみましよう。

いづれも利位の直筆です。作者本人を思わせる福々しい風情の布袋様。悠然と構えたその肩から提げられた袋には夢がいっぱいに詰められている。ところで、このように書き進めていると、利位が一介の趣味人であったかのように思われる向きもあるかもしれませんが、「遊びをせんとや生まれけん」といふことあるでしょう。利位は、公務上でもじつに多大な業績をあげた名君でした。

夢の詰まった袋を担ぐ人々

テーマ展「雪の殿さま 土井利位」より